

2006年度後期

## レポ ー ト 課 題

科目名	金融論研究B	担当教員	森 映雄
レポート課題	各自、指示した通りとする。		
制限枚数	なし		
提出締切	教場提出：2007年1月19日（金）の授業時間		
備 考	なし		

2006年度後期

## レポ ー ト 課 題

科目名	基礎計量経済学研究B	担当教員	中村 慎一郎
レポート課題	目下取り組んでいる研究題目に関し、計量経済学手法についてまとめること。2007年1月17日（水）に教場において口頭発表も行うこと。		
制限枚数	なし		
提出締切	教場提出：2007年1月17日（水）の授業時間		
備 考	なし		

2006年度後期

## レポ ー ト 課 題

科目名	公共経済学特論B	担当教員	須賀 晃一
レポート課題	<p>修士課程1年生：修士論文作成を念頭に置きつつ現在取り組んでいる研究テーマについての先行研究のサーベイ（重要先行研究論文の紹介と問題点の検討でも可）または自身の研究成果についてとりまとめること。</p> <p>修士課程2年生以上：後期に報告した修士論文計画についての報告レジュメ、研究計画書、および現在の研究成果についてとりまとめ。（3つをセットで提出のこと）</p>		
制限枚数	<p>特に枚数制限は定めない。ただし以下の書式を守ること。</p> <p>1) A4横書き。</p> <p>2) ワープロ可。</p>		
提出締切	経済学研究科事務所提出：2007年1月22日（月）		
備考	なし		

2006年度後期

## レポ ー ト 課 題

科目名	国際経済学特論B	担当教員	清野 一治
レポート課題	<p>修士課程1年生：修士論文作成を念頭に置きつつ現在取り組んでいる研究テーマについての先行研究のサーベイ（重要先行研究論文の紹介と問題点の検討でも可）または自身の研究成果についてとりまとめること。</p> <p>修士課程2年生以上：後期に報告した修士論文計画についての報告レジュメ、研究計画書、および現在の研究成果についてとりまとめ。（3つをセットで提出のこと）</p>		
制限枚数	<p>特に枚数制限は定めない。ただし以下の書式を守ること。</p> <p>1) A4横書き。</p> <p>2) ワープロ可。</p>		
提出締切	経済学研究科事務所提出：2007年1月22日（月）		
備考	なし		

2006年度後期

## レポート課題

科目名	財政学特論B	担当教員	馬場 義久
レポート課題	修士課程1年生：修士論文作成を念頭に置きつつ現在取り組んでいる研究テーマについての先行研究のサーベイ（重要先行研究論文の紹介と問題点の検討でも可）または自身の研究成果についてとりまとめること。 修士課程2年生以上：後期に報告した修士論文計画についての報告レジュメ、研究計画書、および現在の研究成果についてとりまとめ。（3つをセットで提出のこと）		
制限枚数	特に枚数制限は定めない。ただし以下の書式を守ること。 1) A4横書き。 2) ワープ可。		
提出締切	経済学研究科事務所提出：2007年1月22日（月）		
備考	なし		

2006年度後期

## レポート課題

科目名	ミクロ経済学研究	担当教員	村上 由紀子
レポート課題	1 1日8時間労働を超えると企業は労働者に25%の法定割増賃金を支払わねばならないとする。この制度がない場合に、8時間の労働供給で効用が最大であった労働者の労働供給は、この制度により増加するか減少するか、労働供給理論を使って論じなさい。 2 資本の価格は変化せず、労働の価格のみが上昇したとすると、労働需要は以下の場合にそれぞれどのように変化するか論じなさい。 資本と労働が完全に代替的であるとき 資本と労働が不完全に代替的であるとき 資本と労働が補完的であるとき		
制限枚数	なし		
提出締切	経済学研究科事務所提出：2007年1月11日（木）		
備考	なし		

2006年度後期

## レポ ー ト 課 題

科目名	ミクロ経済学研究	担当教員	松本 保美
レポート課題	Defend the framework of Arrow's Impossibility Theorem.		
制限枚数	A4横書きワープロ打 5枚程度		
提出締切	経済学研究科事務所提出：2007年1月11日（木）		
備考	なし		

2006年度後期

## レポ ー ト 課 題

科目名	ミクロ経済学研究	担当教員	堀内 俊洋
レポート課題	クールノーモデルについて授業中の内容を整理しながら議論せよ。		
制限枚数	A4横書き 5～10枚程度		
提出締切	経済学研究科事務所提出：2007年1月24日（水）		
備考	なし		

2006年度後期

## レポ ー ト 課 題

科目名	日本経済研究	担当教員	大来 洋一
レポート課題	大来先生、貞廣先生、上田先生の講義の内容に関係のあるもの、ないしは大来先生の配布した参考文献に関係のあるもので、日本経済に関するものであれば、自由に選んでよい。		
制限枚数	横書きを原則とする。長さは6000字～18000字、手書きも可とする。		
提出締切	経済学研究科事務所提出：2007年1月19日（金）		
備考	なし		

2006年度後期

## レポート課題

科目名	金融論特論B	担当教員	花崎 正晴
レポート課題	<p>次の主張のいずれかを選び、その是非を論じなさい。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 日本の企業金融システムは、大蔵省の規制もあり、戦後は銀行中心のシステムであった。ところが1980年代以降金融自由化が進んで銀行のレントが減少し、企業金融システムは、徐々にアメリカや戦前の日本にみられる資本市場中心のシステムに移行しつつある。</li><li>2. 日本の企業系列システムやメインバンク・システムは、企業の設備投資資金のファイナンスや財務危機に陥った企業の再建などの面で極めて有効であり、経済合理性を持ったシステムである。</li><li>3. 戦後の日本では、コーポレート・ガバナンスの面で、銀行が重要な役割を果たしてきた。しかしながら、1990年代初頭のバブル崩壊を契機とした銀行危機の結果、銀行のガバナンス面での影響力は大幅に低下し、株主主権論に基づくガバナンスのシステムへと移行を余儀なくされた。</li></ol>		
制限枚数	3000字～5000字		
提出締切	<p>E-mailによる添付ファイル(PDF or Word)、または授業の際にコピーで持参。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・E-mailの場合：2007年1月21日(日)</li><li>・教場提出の場合：2007年1月17日(水)</li></ul>		
備考	<p>連絡先 E-mail：mahanaz@dbj.go.jp</p>		

2006年度後期

## レポート課題

科目名	統計学研究B	担当教員	西郷 浩
レポート課題	テキスト p. 226 表 9.7 のデータを対数変換して回帰式を求め、同じデータを使って leverage を計算せよ。		
制限枚数	A4用紙使用		
提出締切	教場提出：2007年1月15日(月)		
備考	なし		

2006年度後期

## レポート課題

科目名	国際金融論特論B	担当教員	寿崎 雅夫
レポート課題	国際金融に関する自由テーマ		
制限枚数	5000字以内		
提出締切	教場提出：2007年1月18日(木)		
備考	なし		

2006年度後期

## レポート課題

科目名	中国経済研究	担当教員	王 在喆
レポート課題	「改革・開放」以降の中国経済の成長と発展の特徴		
制限枚数	5枚		
提出締切	教場提出：2007年1月18日(木)		
備考	なし		

2006年度後期

## レポート課題

科目名	人口論研究B	担当教員	大淵 寛
レポート課題	テキストの残余の諸章（第6章以降）のうち、任意の1章について概要をまとめ、コメントを付する		
制限枚数	A4 5枚以内		
提出締切	教場提出：2007年1月18日（木）		
備考	なし		

2006年度後期

## レポート課題

科目名	金融論研究B	担当教員	酒井 良清
レポート課題	金融理論のミクロ的基礎に関する論文を1つ選んで解説すると共に、それをもとに自らのアイデアを付加することを試みよ。講義で検討した論文から題材を選ぶことが望ましい。		
制限枚数	A4 ワープロ（ダブルスペースで）10～15枚程度		
提出締切	経済学研究科事務所提出：2007年1月19日（金）		
備考	なし		

2006年度後期

## レポート課題

科目名	金融論特論B	担当教員	高橋 洋一
レポート課題	<p>2006年3月、日本銀行は量的緩和政策を解除した。これに関連して、次に答えよ。なお、資料は3月8、9日の金融政策決定会合議事要旨を主として参考とせよ。</p> <p>(1) 量的緩和政策を簡潔に説明し、その効果を時間軸効果という言葉を用いて定量的に述べよ。</p> <p>(2) 量的緩和政策を解除にかかる条件を記し、日銀側の論旨と政府側見解を簡潔に述べよ。</p> <p>(3) 量的緩和政策の解除について、現時点で実際の経済データを用いて、肯定的に解する見解または否定的に解する見解のいずれか一つを選択して述べよ。</p>		
制限枚数	A4用紙 4枚		
提出締切	経済学研究科事務所提出：2007年1月19日(金)		
備考	なし		

2006年度後期

## レポート課題

科目名	経済統計特論B	担当教員	野口 和也
レポート課題	授業で行った統計的処方を用いて自分で収集したデータの分析を行いまとめること。		
制限枚数	特になし		
提出締切	教場提出：2007年1月22日(月)		
備考	Excel, Wordなどのファイルにて提出。印刷は不要。		

## レポ ー ト 課 題

科 目 名	開発経済論研究B	担当教員	深川 由起子
レポート課題	<p>次の2つの設問のうち、<u>1つを選び、それぞれの説明及び、</u> Suggested Readings のさまざまな議論を参考にしながら、解答を作成しなさい。（注意すること： 参考文献は何を読んでも良いが、他人と大幅に内容が極端に類似したものについては大幅減点もしくは未提出扱いとなる。 、 の両方に答えないようにすること、出所、注釈は必ず付けること）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1980年代に世銀が試みた“成長志向型構造調整”は多くの国において、必ずしも十分な成長を収めることができなかった。以下を参考に調整ローンの意図を整理した後、成功した国とそうでなかった国との差は何故、現れたのか、論拠を挙げて論じなさい。余裕があれば代表的な国を2つ取り上げて論じても良い。 Corbo, Vittorio; Fischer, Stanley; <i>Adjustment programs and Bank support : rationale and main results</i>, World Bank, Policy Research Working Paper (WPS) No.582. Corbo, Vittorio; Rojas, Patricio, <i>World Bank-supported adjustment programs : country performance and effectiveness</i>, (the same above) No. 623.</li> <li>・ 東アジア通貨危機の大きな特徴は通貨危機と銀行危機が濃密に連動しながら急速に進行したことであった。以下を参考に80年代の金融自由化・規制緩和と危機発生の間にはどのような関係があったか、危機を避けるためには何が必要であったか、東アジアをケースにとって論じなさい。 Kaminsky, Graciela.L, and Reinhart, Carmen, M., “The Twin Crisis: The Cause of Banking and Balance-of-Payment Problems”, <i>American Economic Review</i>, December, 1998. McKinnon, Ronald I. and Pill Huw “Credible Liberalizations and International Capital Flows: The Overborrowing Syndrome” in Takatoshi Ito and Anne O.Krueger eds., <i>Financial Deregulation and Integration in East Asia</i>, University of Chicago Press, 1996.</li> </ul>		
制限枚数	A 4 サイズ、400 字 × 10 枚内外（図表込み）		
提出締切	<b>経済学研究科事務所提出：2007年1月25日（木）</b>		
備 考	なし		

2006年度後期

## レポート課題

科目名	国際経済論研究B	担当教員	田端 克至
レポート課題	政策効果の国際的波及経路について		
制限枚数	体裁、枚数等は自由。		
提出締切	E-mail 提出：2007年1月23日（火）		
備考	修士論文の作成に忙しい学生の方は、便宜を図るので申し入れること。提出方法は授業中に説明する。		

2006年度後期

## レポート課題

科目名	数理経済学研究B	担当教員	丸山 徹
レポート課題	教場で配布済。まだ受け取っていない方は事務所カウンターまで課題を受け取りにくること。		
制限枚数	なし		
提出締切	経済学研究科事務所提出：2007年1月19日（金）		
備考	なし		